

## 古河電工グループの新規事業開拓への取組と グローバルな研究開発



西片一昭\*  
Kazuaki Nishikata

当社グループはインフラと自動車の二つの柱を注力事業分野としていますが、科学技術の進歩がますます速くなる中で、それぞれの事業分野において、以下の2つの大きな技術動向を注視しています。

インフラ(情報通信)分野では、今後起こりうるデータセンターの拡充とそこにつながるトラフィックの増加です。シスコ社の予測によると、データトラフィックは今後年率20%以上成長を続け、2020年には2015年比3倍にもなるといわれています<sup>1)</sup>。現在の光ファイバの製造量はすでに年間4億kmに達し、地球10,000周回分にも及んでいます。今後、デジタルコヒーレントなどの通信技術の進化とそれを実現する半導体光デバイスの技術進化が必要になります。

自動車分野では、自動運転技術の発展と市場での浸透です。2017年1月にラスベガスで開催された世界最大の家電見本市「CES」では、自動運転につながる技術が一斉に花開きました。当社も自動運転に向けて「電源の機能安全」「周辺監視技術」の開発を進め、お客様に採用して頂いています。

このような世界規模での技術の進化に対応していくため、当社では以下の取り組みを進めて参りました。

1つ目は、社内のコア技術の融合による研究開発力の強化です。2年前にコア技術融合研究所を設立し、当社が持つ「メタル」「ポリマー」「フォトニクス」と

いったコア技術に加え、さらに「高周波」技術を融合させて新事業・新技術の開発を進めて参りました。

2つ目は、多様性による競争力強化を目指したグローバル化の推進です。2013年に初めて外国人を執行役員として選任し、現在では4名となりました。欧州の役員1名はハンガリーの研究所(FETI)の所長を務める一方、研究のみならず当社グループの経営課題についても現地固有の文化・マネジメントの特長を生かした意見で活動全体を広くリードしています。

3つ目は、他社への技術開示を積極的に進める「オープンイノベーション」への取組です。多様化するグローバルニーズに対応するためには、パートナーとの技術融合が鍵となります。当社はオープンイノベーションのスキームに注目し、2016年8月に横浜事業所内に“Fun Lab”というまだ製品化されていない技術の展示施設を設けました。企業や大学、官公庁等の研究機関の方々と膝を突き合わせて多種多様な議論を行い、そこから将来の製品やシステムのアイデア、コンセプトを創り出していくことを狙いとしたものです。

本誌を読まれた方で当社グループの技術に興味のある方は、ぜひお声をかけて頂ければと思います。Fun Labでお会いし、技術の議論が出来ればと思います。よろしくお願いいたします。

\* 研究開発本部企画部 部長

1) 出典：シスコ社ホームページ [http://www.cisco.com/web/JP/solution/isp/ipngn/literature/VNI\\_Hyperconnectivity\\_WP.html](http://www.cisco.com/web/JP/solution/isp/ipngn/literature/VNI_Hyperconnectivity_WP.html)